

Change and Challenge with You

Corporate Communication Book

 日本山村硝子株式会社



ごあいさつ

2020年からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中の人々が未曾有の事態に直面しています。当社グループの事業も例外なく影響を受けましたが、コロナ禍という厳しい状況は当社にとって大切なものを見直す機会にもなりました。

当社は、高度成長期の消費が美德の時代からガラスびんの環境特性に着目し、「循環型社会の実現に貢献する」精神を大切にしてきました。近年、海洋汚染をはじめとする環境問題の深刻化を背景に、循環型社会を目指す機運が世界中で高まっています。当社グループとしても、もう一度原点に立ち返り、当社の製品・サービスを必要としてください。ステークホルダーの皆様にも最大限貢献することを徹底してまいります。

2020年には、長期ビジョンとしての当社グループの“ありたい姿”を「環境に配慮しながら安心・安全を提供し、次世代に誇りを持って引き継ぐために成長し続ける企業グループ」と決めました。長きにわたって社会から必要とされる会社であり続けるため、改めてグループ一丸となって歩んでまいります。

また、当社では持続可能な社会の実現のため、地域および環境との調和を重要な経営課題と認識し、環境問題への取り組みを続けております。今後もESGの観点から総合的に企業価値の向上に取り組み、社会から信頼され続ける企業グループを目指してまいります。



代表取締役 社長執行役員

山村幸治

会社の概要 (2021年3月31日現在)

商号 日本山村硝子株式会社(Nihon Yamamura Glass Co.,Ltd.)
 本社所在地 関西本社
 兵庫県尼崎市西向島町15-1 電話06-4300-6000(代表)
 東京本社
 東京都新宿区西新宿6-14-1 電話03-3349-7200(代表)
 新宿グリーンタワービル20階
 創業 1914年4月5日
 設立 1941年12月11日
 資本金 140億7,496万5,448円
 従業員数 785名
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
 会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

基本理念

基本理念は、山村グループの考え方や行動を支えるもので、企業理念の中心となるものです。

事業は人なり

山村グループは、人間を尊重し、明るい経営を実現する。

商いの基は品質にあり

山村グループは、心をこめた製品とサービスをもって、快適な生活文化に寄与する。

革新なくして未来なし

山村グループは、常にイノベーションに挑戦し、燃える集団を目指す。

コーポレート・メッセージ

このコーポレート・メッセージは、はつらつとした山村グループのスピリットを社会に対して特徴づけたものです。

Heart & Technology

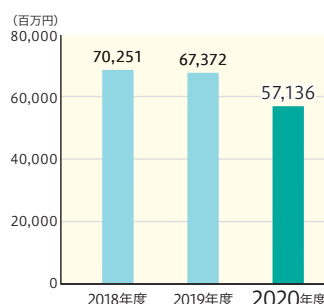
ハート & テクノロジー

人を信じる心を より良いもの
 大切に「商いの心」 生み出してゆく「匠の技」

2021年3月期 連結業績

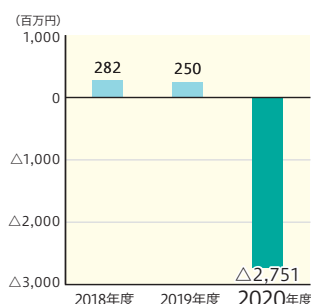
売上高

57,136百万円



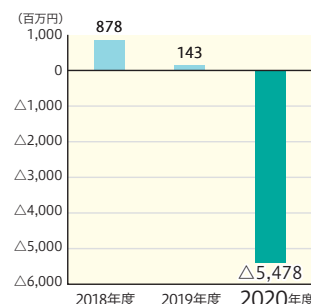
営業利益

△2,751百万円



経常利益

△5,478百万円



会社沿革

1897年 山村商店 六甲山麓砕砂採掘販売を営
 1914年 兵庫県西宮市において山村製壺所として創業
 1922年 機械製壺の研究開発、半人工機械採用
 1928年 全自動製壺システム採用(リンチ式)
 1946年 戦後操業再開 ルツボ窯、半人工で酒びん製造開始
 1955年 株式会社に改組し、山村硝子株式会社として発足
 1960年 プラスチック容器工場建設、製造開始
 機工部(現:エンジニアリングカンパニー)開設
 1961年 神奈川県相模原市に東京工場建設、操業開始
 1962年 東京都に日硝株式会社(現:星硝株式会社)設立
 1967年 兵庫県西宮市に山村倉庫株式会社設立
 1970年 東京・大阪証券取引所 市場第一部上場
 1973年 リサイクル事業開始
 1980年 兵庫県加古郡播磨町に播磨工場建設、操業開始
 1983年 兵庫県西宮市に株式会社山村製壺所設立
 1987年 兵庫県西宮市にニューガラス研究所を新設
 兵庫県加古郡播磨町に関西工場(プラスチック)建設、操業開始
 1989年 広島硝子工業株式会社と合併
 1990年 川島プラント(プラスチック)建設、操業開始
 兵庫県西宮市にニューガラス開発プラント(現:鳴尾浜プラント)建設、操業開始
 1991年 フィリピンにサンミゲル山村アジア社設立
 1995年 栃木県宇都宮市に宇都宮工場(プラスチック)建設、操業開始
 1996年 英領バージン諸島にサンミゲル山村ガラスベトナム社設立
 1998年 日本硝子株式会社と合併、日本山村硝子株式会社として発足
 2000年 エンジニアリング、リサイクル、ニューガラス事業を社内分社しカンパニー制へ移行
 兵庫県尼崎市に尼崎プラント(ニューガラス)建設、操業開始
 ガラス、プラスチック事業を社内分社しカンパニー制へ移行
 2004年 中国に展誠(蘇州)塑料製品有限公司設立
 2008年 サンミゲル山村パッケージング社及びサンミゲル山村パッケージング・インターナショナル社へ資本参加
 山硝(上海)商貿有限公司を設立
 2009年 兵庫県尼崎市に本社移転 二本社体制スタート
 タイに山村インターナショナル・タイランド社設立
 2010年 インドネシアにサンミゲル山村ウタマ・インドプラス社設立
 山村フォトニクス株式会社子会社化
 2013年 秦皇島方圓包装玻璃有限公司子会社化
 2018年 株式会社ワイティエフ設立
 台湾山村光學股份有限公司設立
 2019年 アルガラス山村設立
 山村プラスチックプロダクツ株式会社設立
 2020年 サンミゲル山村パッケージング社が同社を存続会社として、サンミゲル山村アジア社と合併

詳しくはwebへ

<https://www.yamamura.co.jp/ir/index.html>



カンパニーと研究開発センターの紹介

ガラスびんカンパニー



特長・特性

- 高品質保証体制を確立
- スピーディな新製品開発サポート

ガラスびんカンパニーでは、新たなびん形状の開発や加飾技術による高付加価値化、最先端の検査設備開発による高品質化に注力しています。びんの軽量化を引き続き推進するほか、廃熱の有効利用等の研究や、ガラスびんの環境特性の発信に注力することで、循環型社会の実現に貢献します。海外各社との技術開発、製品の海外販売、海外技術援助先の開拓にも積極的に取り組んでいます。近年では、金型への離型剤塗布作業のロボット化にも成功しています。

プラスチックカンパニー



特長・特性

- お客様から高評価をいただいている耐熱TENキャップ
- 安定した品質と供給のご提供と環境貢献への強い取組み

プラスチック容器の新たな可能性へのチャレンジを続けています。今後は、特に環境に貢献できるような新たな開発に注力すると同時に、新規分野参入への挑戦にも力を入れていきます。

海外展開は、中国およびインドネシアのプラスチックキャップ製造・販売子会社の事業規模拡大に引き続き取り組んでいきます。

ニューガラスカンパニー



特長・特性

- 環境関連製品売上比率 約30%
- 市場ニーズに合った組成改良と新しい用途開発を実施
- 国内外の最先端のニーズに迅速に対応

ガラスびん事業で培った高度な技術をベースに、エレクトロニクス、エネルギー、自動車関連など幅広い分野のニーズに対応。独自の最先端技術で新製品開発や生産技術開発に取り組み、広く社会に貢献します。

また、国内外グループ会社と連携し相乗効果を生み出しながら、5G通信向けLTCC材料などの次世代高速光通信部品やガラスセラミックス製品を展開しています。

研究開発・生産・販売が一体となって新しい未来を創造します。

エンジニアリングカンパニー



特長・特性

- 国内唯一のガラスびん成形機メーカー
- ガラスびんにやさしい搬送技術
- 各種機器の輸入代行と輸入機の販売商社

ガラスびんに求められる日本品質を守り、自社のノウハウを反映した成形機を製造販売しています。自社開発の総合検査機や自動塗油ロボット(MSR)等に加え、海外メーカー製品も取り扱っています。メンテナンス体制の構築にも注力し、ガラスびん関連設備のワン・ストップ・サービスを提供しています。

他にも、変形ボトル搬送のノウハウを活かした搬送機器やバルク包装機、液体充填設備のラインエンジニアリングも展開し、ガラスびん製造以外の分野へ事業の翼を広げています。

研究開発センター



特長・特性

- 持続可能な新規事業の研究開発
- 競争優位性のあるオリジナル技術の開発
- 高性能な野菜を生産する植物工場

研究開発センターは、2007年の設立から現在に至るまで、既存事業とは異なる分野で新規事業の研究開発を続けています。開発の基本コンセプトは「安心・安全」「環境」「サステナブル」。開発テーマの一つである植物工場事業は2014年末から生産販売を開始し、完全制御型植物工場としては第一号となる機能性表示食品の届け出を実現。今後も競争優位性のあるオリジナル技術の研究開発を継続していきます。

詳しくはwebへ



・国内ネットワーク…当社は長年にわたり事業の多角化を進めてまいりました。特に物流関連事業は近年社会的ニーズの高まりを受け大きく成長を続けております。

<https://www.yamamura.co.jp/company/group.html>

ネットワーク



・海外ネットワーク…技術援助や高品質な製品のニーズに応え、海外へ事業領域を拡充してまいりました。信頼されるグローバル企業として世界に貢献していきます。

<https://www.yamamura.co.jp/company/global.html>

詳しくはwebへ



当社は1914年の創業以来、「循環型社会の実現に貢献する」精神を大切に、ガラスびん製造を事業の柱として着実な歩みを続け、現在では容器メーカーとして不動の地位を築き上げました。2020年度より、長期ビジョンとして当社グループのありたい姿を「環境に配慮しながら安心・安全を提供し、次世代に誇りを持って引き継ぐために成長し続ける企業グループ」と定め、中期経営計画を策定いたしました。

<https://www.yamamura.co.jp/ir/plan.html>

中期経営計画

詳しくはwebへ



現在、当社では環境活動の効果を更に高めるために、持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標と169のターゲットを意識して活動に取り入れています。

具体的には、「省エネルギー・省資源の推進」、「環境負荷低減の推進」、「地球温暖化対策・CO₂排出量低減の推進」、「持続可能な社会実現への3R(リデュース・リユース・リサイクル)活動の推進」、「廃棄物の減量化及び再資源化の推進」、「環境改善に寄与する製品開発の推進」、「環境に配慮した製造設備、機器の開発」、「地球環境活動への参加」に取り組んでいます。

今後も社会からの期待や要請を捉え、社会課題の解決に貢献できる活動を推進していきます。

<https://www.yamamura.co.jp/csr/management.html>

環境への取り組み

詳しくはwebへ



当社は創業以来、循環型社会の実現と持続的成長を目指して事業に取り組んできました。社会環境が大きく変化している中、さまざまな社会問題の解決に寄与し持続可能性を考慮しなくてはならない時代です。その社会とは、日本国内や当社グループの事業領域に限定するものではありません。社会の要求に応える、社会の役に立つことを意識することで当社は持続的成長を果たせると考えています。

https://www.yamamura.co.jp/csr/social_activity.html

社会への取り組み

詳しくはwebへ



当社は、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。企業理念などに基づき、経営の透明性・公正性を確保した上で、迅速・果敢な意思決定を行うことで、持続的な成長および中長期的な企業価値向上を図るとともに、株主をはじめお客様・取引先・従業員などの各ステークホルダーの信頼に応える経営を行っていくことを、基本的な考え方としています。

取締役会の監督機能のさらなる向上、審議の一層の充実および経営の意思決定の迅速化を図り、コーポレート・ガバナンスの実効性をより高めていきます。

<https://www.yamamura.co.jp/csr/governance.html>

ガバナンスについて

TOPICS

◆ 第17回 ガラスびんアワード 2021

https://www.yamamura.co.jp/files/news/products/20210415_CMS0125.pdf

～当社グループ製造のガラスびんが最優秀賞、優秀賞を受賞～

「ガラスびんアワード」とは、日本ガラスびん協会が主催するイベントです。「ガラスびんは優れた保存容器である」という視点で、消費者のライフスタイルの変化やトレンドを捉えた、優れたガラスびん製品を表彰しています。



「蔵べるシリーズ」
三菱食品株式会社 様
製造 日本山村硝子株式会社



「キリン シングルグレーンウイスキー 富士」
キリンディスティラリー株式会社 様
製造 日本山村硝子株式会社



「京都宇治玉露 玉兎」
京都府茶協同組合 様
製造 株式会社山村製壺所

◆ 「開けやすさを追求したPETボトル用キャップ」を大塚製薬工場様と共同開発

～大塚製薬工場様の経口補水液オーエスワンが2020年度グッドデザイン賞を受賞～

当社は株式会社大塚製薬工場様と共同で、開けやすさを追求したPETボトル用のキャップの開発を行いました。本キャップへの変更およびPETボトルの改良を行った経口補水液オーエスワンが2020年度グッドデザイン賞を受賞しました。経口補水液オーエスワンは軽度から中等度の脱水症に適し、患者さんや高齢者の方などを中心に広く使用されている病者用食品です。こうした用途のもと、ユニバーサルデザインの観点から、利用しやすさに配慮した製品設計を行い、密封性を確保しつつ、開けやすさを最大限に追求したキャップを開発しました。現在、市場で販売されている製品の全てに本キャップが使用されています。



<大塚製薬工場様より画像提供(当社はPETボトル用キャップを共同開発)>

◆ こだわりの植物工場野菜「きらきらベジ」。インターネットで好評発売中!

2018年より販売を開始した、植物工場野菜「きらきらベジ」は関西地区の百貨店・スーパーでお取り扱いいただき、好評を得ています。昨年3月には、「きらきらベジ ネットショップ」を開設し、全国のお客様に「きらきらベジ」をお届けできるようになりました。その後、楽天市場への出店や、こだわり食材のオンライン直売所「食ベチョク」への出品を行うなど、積極的にネット通販の販路拡大に取り組んでいます。

きらきらベジ ネットショップ



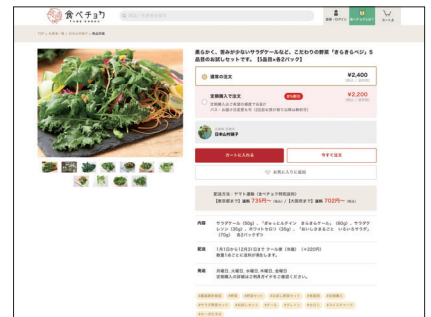
<https://www.kiravege.jp/>

きらきらベジ ネットショップ 楽天市場店



<https://www.rakuten.co.jp/kiravege/>

食ベチョク



<https://www.tabechoku.com/products/18341>